



大阪早稲田倶楽部 NEWS

校友のパワーと友情を繋いで、組織力を高める年にしよう



長夫 支部長 和部 支部長 角 支部長 早稲田 倶楽部 大阪 早稲田 倶楽部 大阪 早稲田 倶楽部

新年明けましておめでとようございます。皆様におかれましては新しいお気持ちと決意と期待を持って新しい年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

私なりに昨年一年間を振り返ってみましょう。世界経済は昨年のリーマンショックを契機とする金融危機後の最悪期を脱し、底入れしつつありますが、力強い回復には程遠いものがあります。各国政府の景気刺激策が成長率の底上げをしているのであり、自立的な回復には至っていません。今後回復傾向にはあるものの、しばらくは二進退の状況が続くのではないのでしょうか。

節約指向、価格感応性を強めています。消費の低迷、生産の抑制、個人所得の減少という負のスパイラルに陥っている感があります。

政治の世界では昨年八月の衆議院選挙で民主党が圧勝し、長らく日本の政治を率いてきた自民党が下野しました。

民主党政権はそのマニフェストで宣言した政治主導、脱官僚依存、中央集権から地域主権へ、税金のムダの排除、コンクリートから人間中心の社会を実現できるのか。経済成長・国際競争力はどうなるのか。安全保障をめぐる米国のとの関係はどうなるのか。いまや日本は歴史的転換点に立っていると云えます。

戦後歩んできた成功の道のりはもろくも崩壊し、急速な少子高齢化と人口減、医療・福祉・年金の問題、環境問題と問題山積であります。

このような停滞、不安、混沌、非連続な時代こそ早稲田マンの持つ勇氣、知力、氣力、そのチャレンジ精神が問題のブレイクスルー、解決に貢献し、閉塞感を打ち破り、未来を切り開くものと確信しています。特に早稲田の持つ多様性が創造性に富む革新を生む力となります。

私は今でも時々イラクで亡くなった在英国大使館の奥克彦参事官(後に大使に昇格を思い出します。イラクで乗っていた車が銃の乱射を受け、志半ばで非業の死を遂げました。彼は兵庫県の伊丹高校の出身で早稲田大学政治経

済学部に進み、二年までラグビー部に所属していました。外務省公務員上級試験に合格し、外交官の道を歩むのですが、志を高く持ち、自らの身の危険もかえり見ず、民衆のために尽す彼の姿に早稲田マンのあるべき姿を眩しく見たものです。

さて大阪早稲田倶楽部は九十年の歴史を誇るユニークな校友の集まりであり、青・壮・老の各年代の方六百名が会員を構成しています。

そこには現代の坂本龍馬、高杉晋作、西郷隆盛、勝海舟等々多士済々が集まり、情報の発信、受信、刺激の授受、懇親、自己研鑽に努めています。その活動は日本広しといえども大阪早稲田倶楽部以上の活動をしている校友の団体はないものと自負しています。ただ如何せん、会員数が少なすぎること、財政的基盤の脆弱性は紛れもない事実であり、会員の皆さんのご協力を得ながら、今後早急に解決してまいりたいと思います。

また昨年十一月の校友会大阪府支部総会で横山支部長の後を受け、新しく支部長に就任いたしました。この大阪府支部には大阪府内在住七千名の校友に大阪府内在職千名を加えれば八千名の会員がおられることとなります。

この八千名のエネルギーを支部活動に結集できれば社会的に相当大きなことが出来るのではと期待しています。また大学の事業運営にも大きなサポート

ができるのではと楽しみにしています。この八千名の会員の方と大阪府支部が如何に意思疎通を深め、絆を強めていくかが今後の大きな課題であり、例えば私のこの新年のご挨拶も大阪早稲田倶楽部の六百名の皆さんには届くのですが、八千名の支部会員の方には届きません。どうすれば届くのか、どうすれば会員相互でその意見、思いの交換ができるようになるのか、皆様方のお知恵を拝借しながら進めてまいりますので、よろしく願います。

新年あけまして、おめでとようございます。皆様には、良い年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。平素は倶楽部の運営、活動にご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。



大阪早稲田倶楽部 理事長 原山 一 晃

大学は、ネクスト125、第二世紀に向けて、世界を視野に国際的展開と、国内に於いても、将来へ向けての小、中、高校の新設や新学科、新校舎の完成など、着実に大きな布石が打たれております。関西では、摂生中、高校が既に系

属校としてスタートし、今後の着実な進展が期待され、関西主要大学との連携も多方面に亘り、ワセダの積極的姿勢が感じられます。

昨年11月23日、甲子園球場にて2万人を越える観衆のもと、53年振りのオール早慶戦が開催されました。残念ながら試合では負けましたが、斎藤投手の力投もあり、応援団チアガールの華やかな応援合戦で、大いに盛り上げました。OBの方々、父兄、中高生など、久し振りに球場で歌う「都の西北」や「紺碧の空」に感激されたことでしょうか。

試合を盛り上げるため、倶楽部としても、チケット販売に、会員の皆様にご協力をお願い致しました。お蔭で、予定枚数の倍以上のご支援を得て、早慶戦に協力出来たこと、心から厚く御礼申し上げます。

倶楽部は、年令や職種などに関係なく、気楽に楽しく、意義ある存在感のあるクラブとしてまいりたいと思っております。この指導とご支援をお願い致します。大阪地区には、七千名の校友がおられますが、倶楽部の存在も知らない校友もおられ、新会員増強にも、力を入れてまいりましたが、時代の厳しい背景や、活動に時間がとれない現状や、倶楽部の魅力をどの様に向上するかが課題であります。

校友会と倶楽部、それぞれ目的活動が違うところがありますが、校友として母校を愛し支えていく心意気には変わりないと思っております。今後は連携した活動展開が必要であろうと思っております。

本年も、倶楽部の運営活動に、ご支援をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸を、お祈り致します。

チェンジンがあった 校友会大阪府支部定時総会



大学と校友会大阪府支部共催の早稲田大学地域フォーラム「早稲田を知る」in大阪が、11月17日(火)リーガロイヤルホテル大阪で催された。

第一部は3時から教学・就職説明などの大学案内会と父母会や、大学側からは白井克彦総長をはじめ7名と大阪府支部商議員・代議員15名が出席しての懇談会が開かれた。慶応の運用資産損失が話題となり、また福田秋秀校友会代表幹事からは今年の校友会125周年に「校友の碑」を建設する計画が披露された。

昨年の米国の新大統領が国の政権交替という変化に歩調を合わせ

友会大阪府支部も校友一丸となつて良き伝統を継承し、協力し合つて新しき力を生み出し、母校の発展に寄与して行かねばならないと思つて居ります。

私も、支部長を10年余努めさせて頂きました。余が、昨年の総会もつて退任させて頂きました。

皆さん 明けましてお目出度うございます。新しい年をお元気で迎えられると思ひます。さて、今年も庚寅(かのえとら)の年と云われて居ます。庚は継承、継続、切磋琢磨、更新するを意味しており、寅は協力、支援する意とされて居ります。従つて、今年も、校

第137回大阪早稲田倶楽部定例コンペ 11月28日(土) 於 大宝塚ゴルフ倶楽部(宝塚・西宮コース)

たわけではないが、5時から開かれた「山楽の間」での支部定時総会では、永年支部長を務められた横山昌弘氏が勇退、大阪早稲田倶楽部会長で阪急阪神ホールディングス社長の角和夫氏(昭48年政経)が新支部長に就任する大きなチェンジがあり、横山氏に労いの花束が贈られた。また、高野泰明前会長に「賛助商議員記」が白井総長より贈呈された。

第二部の地域交流フォーラム講演会では、はじめに白井総長が「WASEDA NEXT 125と日本の高等教育」と題し大学の大衆化や少子高齢化、海外からの留学生が千人に及ぶ

非力な私を10年も支えて下さいました校友の皆様、厚く御礼を申し上げます。

横山昌弘(昭32年法) 校友会前大阪府支部長



グローバル化の影響など大学が抱える問題やキャンパスが社会に果たす役割のますます大きくなることを講演され、商学術院の横山将義教授が「景気指標から見えた日本経済」今後の動向を占う」と題し指標が示す経済の動きをわかりやすく解説した。「菊の間」に会場を変えての白井総長や藁谷友紀早稲田摂陵中学校長出席の第三部の懇親パーティでは、角新支部長が校友会費納入率が大阪市内とくらべて低い。大阪府支部の今後の課題は府下校友会の組織化で、そのため

比較的フェアウェイが狭く、ガードバンカーも多く手こずるゴルフ場でしたが、それ以上にグリーンが難しく皆さん大変苦勞されておられました。アンジユレーションが複雑な上に、ピン位置がシビアな位置にあり、ちよつと気を緩めると3パットどころか4パットも

優勝の副賞はキャディバッグでしたが、稲部さんより次回コンペの商品としてご寄付いただきました。ありがとうございました。ベスグロは、実力発揮のゴルフ部OB平田房夫さんでした。

昨年この記事を書いております石戸稔、そして稲部勝博、松村浩之が務めさせて頂きました。今年も同じメンバーでお世話をさせて頂いたく予定ですが、至らないところもたくさんございますが何卒よろしくお願い申し上げます。次回は3月を予定しております。奮つてご参加ください。

石戸稔(昭55年法)



成績表

順位	氏名	宝塚	西宮	グロス	NET
1	稲部勝博	43	40	83	72.2
2	竹田雅幸	44	44	88	73.6
3	平田房夫	39	41	80	74.0
4	衣斐訓	55	53	108	74.4
5	大塚征慈郎	48	51	99	75.0
6	佐々木恒己	49	41	90	75.6
7	柏木行道	43	45	88	76.0
8	奥山一徳	53	51	104	76.4
9	河田一彦	57	53	110	77.6
10	酒井公明	45	50	95	78.2
11	西 祐作	53	54	107	78.2
12	中西克昌	58	46	104	78.8
13	熊澤一郎	49	48	97	79.0
14	松村浩之	47	41	88	79.6
15	徳井隆一	56	49	105	79.8
16	森元 泉	49	47	96	80.4
17	和田浩孝	57	56	113	81.8
18	山原一晃	55	61	116	82.4
19	石戸 稔	57	47	104	82.4
20	滋野雅之	57	58	115	82.6
21	石黒恵子	62	58	120	84.0
22	中村雄一	62	59	121	85.0
23	砂川功次	63	51	114	85.2
24	増本龍男	59	64	123	87.0
25	大西平一	80	85	165	129.0



全早慶戦圧巻!! 3連続三振の斎藤祐樹

小春日和の11月23日、53年ぶりに甲子園球場での全早慶戦が開催された。11時の開門から観客が集まり、観衆は二万人。12時の応援合戦開始、13時試合開始、始球式は高校時代に甲子園で活躍した両校OB、投手は昭和24年選抜優勝の北野高・多胡隆司(慶応76歳)、捕手は、梶原屋高・石本健二郎(早稲田74歳)、打者は梶原高・吉岡宏(慶応81歳)。試合は、慶応の先攻で始まった。早稲田の

先発は、ロツテから二位指名の大谷(トヨタ自動車)、三回を1安打無失点に抑えて貫禄をみせた。早稲田の攻撃も、一回3点、三回2点と得点を重ね楽勝ムード。ところが二番手池下が大乱調、あつという間に7点を奪われ降板、救援の大西も1点を追加されこの回8点を奪われ逆転された。七回にも2点を奪われ万事窮した。救いは、来秋ドラフトの1位候補大石が八回をMAX14

8キロの直球勝負で抑え九回は、第一〇代主将・斎藤の登板、早実からの女房役白川とのコンビで三者三振に抑え観衆を喜ばせた。甲子園は駒大苫小牧との決勝再試合以来、1190日ぶりの登板であった。試合は10対5で完敗であったが、見どころの多い内容と神宮さながらの応援合戦で学生時代を思い出し、大満足の日だった。
広報委・田尾

たった二人の釣りの会

10月3日(土) 淡輪ヨットハーバー



今回の経済部会、釣りの会は開催発表から開催日まで余裕がなかったことと当日の朝方まで雨が降り続いたこともあり、森本会長と私の最少人数による開催となりました。しかし天候はどんどん良くなり目的地に着いたころには絶好の釣り日和となりました。

またこの日は中秋の名月にあたり、大潮となる釣りには最高のタイミングでした。釣り場淡輪ヨットハーバー(近く)の釣具店のお爺さんも潮は最高と太鼓判を押してくれました。ヨットハーバー防波堤先端の灯台下に陣取り、釣りを開始したのはお屋前のことでした。周りは既に熱心な釣り人や近所の家族連れで賑わっていました。

実のところ釣りの初心者である私は真正正銘身体一つでやって来たため釣具から仕掛けまで一切森本会長にお任せでお世話になりました。私は素人向きのサビキ釣りで、鰯や鰯など小物をねらい、森本会長はゴカイを餌に鯛、鰯など大物ねらいで開始しました。

潮の流れは午後から良くなり、当りも良く、昼食を忘れるほど。腕がよければ相当の水揚げがあったものと悔やんでおります。結果的にバケツ一杯分のアミエビをばら撒きましたので始終フグの子などの小魚で海面は賑やかなものでした。それでも大物に針ごと食い逃げされたことが数回あり、そのうちの一つでも吊り上げていればと悔やまれてなりません。地球を釣ったのではないと確信を持っています。森本会長も何度か大物に針ごと食い逃げされるなど苦戦されていました。本日の釣果はアジ(15cm程度)3尾、イワシ(10cm程度)2尾計5尾という結果となりました。

そろそろ仕舞い掛けようとしていた午後4時ごろ、思いもかけず当ヨットクラブ理事長の西浦先輩(昭37年商)が陣中見舞いに来られました。成績の悪いのを見かねてかヨットクラブへお招きを頂きました。淡輪ヨットクラブは1983年ヨットハーバー開港と同時に創設され、海外にまでクルージングに出られる会員も多数あり、海外からのヨットも入港し、親善を深められていると伺いました。ヨットクラブ会員の柿原氏(昭41年法)より獲れたての太刀魚の刺身をはじめ、航海中に造られる手料理をご馳走になりながら、他の会員の方々とも歓談できる楽しい時間を過ごさせて戴きました。知らぬ間に夜も8時を過ぎ、満月の明かりの中、淡輪駅まで西浦先輩に見送り頂き、ほろ酔い機嫌で帰途につきました。帰り道、月を眺めて一句：
満月に当ての外れし釣果かな
勝山 清(昭42年商)

Wフオーラム てくてくハイキング

コース 賤ヶ岳 11月3日(祝) 晴れ 参加人数・3名
余呉駅→大岩山→賤ヶ岳→余呉湖畔→余呉駅→長浜→京都

時枝 奉之(昭43年院・理工研)

賤ヶ岳は標高421mと低い山で特徴はありませんが、羽柴秀吉と柴田勝家の古戦場として名前は長く知られた山です。琵琶湖の北端にある小さな余呉湖を一周するコース。当初の予定は11月1日でしたが、木枯らし1号をもたらした優勢な低気圧の通過で順延となり、参加者は1名減って山口幹事、勝山さん、時枝の3名となった次第。当日も天気図を睨みながらの出発となった。余呉は遠いので、「秋の関西1デイパス」を活用して10時頃に余呉駅着。山道に入って直ぐにイノシシ除けの高圧電線が道を塞いでいた。跨ぐには高すぎてどうしたものかと思案。良く見ると絶縁したホルダーがあり電線を外せると分かった。通った後元通りにセットして歩き始めて上を見ると、取扱いの説明板があり思わず苦笑。下の電線ばかり見えて上を見ていなかった。尾根道は大きな木が茂って展望が無いので、

賤ヶ岳山頂までノンストップで登る。途中の大岩山から合戦の舞台であり、討死した羽柴方の中川清秀の大きな墓があった。山頂で展望が開け見事な景色。南側に琵琶湖の湖面が銀色に光り、北側は余呉湖の全景が見渡せる。登って来た東西の尾根は緩やかであったが南北は急斜面となっており、こんな急斜面で武器を身に付けて、槍や刀を振り回して戦った苦労がしのばれる。各所に説明の掲示板があり歴史の良い勉強になった。北風が強くて寒いので、昼食は湖畔で取る事にして急斜面を下る。1デイパスで琵琶湖遊覧船のミシガンに乗れるので、昼食は早く済ませて余呉駅へ急いだ。がタツチの差で列車を逃す。仕方なく帰路にいたが、勝山さんの提案で秀吉の居城があった長浜を見物するために途中下車。



賤ヶ岳山頂

長浜城内の歴史博物館でさらに詳しい歴史の勉強が出来た。石田三成と小堀遠州が長浜生まれだと初めて知った。さらに火縄銃の銃身の丸い穴の作り方の解説があり、長年の疑問が解決した。巨石の日本庭園である慶雲館に日本最大の芭蕉の句碑があり、俳句を詠む勝山さんが興味深く見ていた。列車に乗り損なつたお陰で各種の思わぬ収穫があった。多くの観光客に混じつての歴史地区の散策が終わつたので、居酒



第25回「食べ歩き会」に参加して

第25回「食べ歩き会」に参加して

成と小堀遠州が長浜生まれだと初めて知った。さらに火縄銃の銃身の丸い穴の作り方の解説があり、長年の疑問が解決した。巨石の日本庭園である慶雲館に日本最大の芭蕉の句碑があり、俳句を詠む勝山さんが興味深く見ていた。列車に乗り損なつたお陰で各種の思わぬ収穫があった。多くの観光客に混じつての歴史地区の散策が終わつたので、居酒

今回は、桃谷樓で中華料理を頂きました。食べ歩きの世界の中でも私の記憶では、中華は、初めてではないかと思えます。24名の参加者は3卓のテーブルに分れ、金子先輩の乾杯の発声で宴会がスタートしました。まず、石膏やハスの葉で固められ、約5年程、熟成された紹興酒のカメ出しのパフオーマン

今回は、桃谷樓で中華料理を頂きました。食べ歩きの世界の中でも私の記憶では、中華は、初めてではないかと思えます。24名の参加者は3卓のテーブルに分れ、金子先輩の乾杯の発声で宴会がスタートしました。まず、石膏やハスの葉で固められ、約5年程、熟成された紹興酒のカメ出しのパフオーマン

がりました。そして、鶏肉とピーナツの辛味炒め、飲茶と続きました。それから、豚肉と野菜の煮込みが出ましたが、長時間煮込まれた豚肉は、トロトロで正にコラーゲンたっぷりの実感がしました。ここまでの料理は、四川、上海、広東から選ばれていて、どれもこれも非常に美味でした。最後に焼き麺とデザートを頂戴しまして、お開きとなりました。

幼少の頃からよく中華料理を食べに連れてもらうことが多く、自然と大好物になりました。また、前に会社を経営していたころは新年宴会は、いつも中華でした。このように中華は、大勢の人数で、たくさん種類の料理を味わえるので値うちがあるように思います。2009年最後の食べ歩き会でしたが、これからも積極的に参加しておいしい物をたくさん頂きたいと思えます。鳴神静治(昭51年商)

てくてくハイキング

Wフォーラム

時枝 奉之(昭43年院・理工研)

コース 六甲パノラマビューー 11月14日(土) 曇りのち晴れ 参加人数・6名
 (阪急)六甲→六甲ケーブル→記念碑台→ノースロード→ダイヤモンドポイント→三国池
 →穂高湖→アゴニー坂→摩耶山→摩耶ケーブル→パンダ飯店→(阪急)王子公園駅

今回は六甲の池に映える紅葉を楽しむ企画。未明に寒冷前線は通過したが、後方にもうひとつ低気圧があるため、すつきりとは晴れずぐずついた天気予報。出発前は小雨も降っており、紅葉は晴れていないと映えないのと翌日は晴天なので延期しようかとも考えたが、延期すると参加者が半減すると雨は止む見込みだったので決行した。

初参加の岩崎さんを含めて9時前には(阪急)六甲に全員集合。記念碑台から稜線の北側のノースロードに入ると、雲の中に入り濃いガス(雲の中の濃霧の状態を山ではガスと呼ぶ)で何も見えない。濃霧の中に木々がうつすらと見えて幻想的な風景で趣はあるが、風が吹く度に頭上の木々から滴が落ちて来て雨の中を歩いている様で現実に戻される。天気の回復は見込めそうに無く、雨が降らない事

のみを祈ってひたすら歩く。ダイヤモンドポイントに着いた途端、ガスが一気に切れてわずかに数秒で幕を開いた様に素晴らしい眺望が開け全員感動する。この近くに山仲間のみが知っているクマザサの中の踏跡を掻き分けて登る、六甲での最良のビューポイントもあつたのだが開発で破壊されていたのは残念。

晴れたので気分も良くなつて快調に歩き、三国池の景色を楽しんで穂高湖に向かう。穂高湖は紅葉に囲まれ水面に映えて見事な景色。午前中は天気が悪かつたためハイカーは少なく、シーズン中は人が多い穂高湖も我々が着いた時は誰もおらず、静かな景色を満喫しながら昼食。昼御飯で元気を出して急登のアゴニー坂を一気に登り、摩耶山天守寺に立ち寄る。境内からの眺めは絶



景。昨夜来の雨と風で大気が洗われて視程が極めて良く、南は紀淡海峡の友ヶ島が鮮明に見える、さらに後方には四国の蒲生田岬も見え、真下には淡路海峡大橋が見え、西方は小豆島まで見える。六甲山には数多く登っているがこの様な絶景を見るのは初めて。視程は軽く100kmを越えているであろう。摩耶山上からはロープウェイには乗らず上野道を下り、

旧天上寺の史蹟と枯死しているが推定樹齢千年の摩耶の大杉を見てケープルカーに乗って15時間前に下山した。灘温泉で疲れを取った後、いつものパンダ飯店に行く。予想外の好天と絶景に大いに満足して調子になり、いつも以上の騒ぎとなる(16時過り18時過り)。(阪急)王子公園駅着は20時30分で、幸運に恵まれた今月2回目のハイキングは無事終了。

●史談会 予定 講師/田尾秀寛

テーマ「空海とその時代」——
 『弘法大師行状絵』12巻をひも解きながらこの絵伝は南北朝時代、弘法大師生誕六百年記念として作成されたもので、東寺に伝わる重要文化財。史実と伝説とを整理しながら講をすすめたい。

また、司馬遼太郎の「空海のある風景」の記述と史実との整合性についても考察する。

◆第1講 2月25日(木) 巻1・巻2
 誕生から久米寺で大日経を発見するまで時代背景と佐伯家や行状絵の成り立ちなど

◆第2講 3月11日(木) 巻3・巻4
 留学生として入唐を果たすが、その背景は？唐での修業の実態は？

◆第3講 4月8日(木) 巻5・巻6
 最澄との関係(決別の理由など)

◆第4講 5月6日(木) 巻7・巻8
 高野山・東寺について

◆第5講 6月10日(木) 巻9・巻10
 後七日御修法について

◆第6講 7月8日(木) 巻11・巻12
 弘法大師入定後の展開について
 ※尚、オプショナルとして、東寺特別拝観や高野山探訪も計画したい。

◆3月・7月・11月 定例コンペ
 ◆5月29日(土) 早慶戦 田辺C.C
 ◆8月 早同戦

●ゴルフ部 年間予定

◆1月19日(火) ◆7月20日(火)
 ◆2月16日(火) ◆8月17日(火)
 ◆3月16日(火) ◆9月21日(火)
 ◆4月20日(火) ◆10月19日(火)
 ◆5月18日(火) ◆11月16日(火)
 ◆6月15日(火) ◆12月21日(火)

◆稲雲俳句会 年間予定

※開催時間は事務局まで



大阪早稲田倶楽部

早稲田大学校友会大阪府支部